

## 地域に愛着を持ち、地域を大切に思う気持ちや態度を育てる環境教育 ～豊かな体験活動を通して～

千葉県館山市立西岬小学校 小熊 敦

### I 現状と課題

#### 1 現状認識

本校は、房総半島の西端にあり海に囲まれた自然豊かな学校である。平成 26 年、海洋教育モデル校としてお茶の水女子大学と市教育委員会から 3 年間の指定を受け、それ以降も実践を重ねている。学区内にはお茶の水女子大学湾岸生物教育研究センター・東京海洋大学水圏科学フィールド教育研究センターがあり、体験活動を通じた海洋教育の推進を支援していただいている。児童が自分を取り巻く環境とどう関わっていくか、身近な海を素材とした 6 年間の学びの中で、本校の環境教育の重点である「環境に対する関心と豊かな感受性の育成」「身近な活動や体験に基づく実践力の育成」を推進している。

#### 2 課題分析・アプローチの視点

##### (1) 6 年間の学びのつながりを整える

外部人材との連携を強化し環境に対する関心・感受性の深まりと広がりを育成するカリキュラムを再構築する。

##### (2) 興味・関心の持続から実践力へ

実践力につなげるためには、興味・関心の継続が大切である。豊かな体験活動後の思いを継続できる環境を整えることが必要となる。

### II 研究の概要

#### 1 環境に対する関心・豊かな感受性の育成

##### (1) 6 年間の学びのつながり

###### ① 1・2 年(生活科)「夏とあそぼう」\*海に親しむ

2 学年合同の活動。学区内の海岸で生き物を探す。その場で分類し、各自持ち帰り学校の水槽で飼う。

###### ② 3 年(総合的な学習の時間)「西岬のたからもの」

\*海に親しむ・海を知る

石川県能登町の小学校と生き物図鑑の交流。「海からのおくりもの」天草とり・寒天作り

###### ③ 4 年(総合的な学習)「海の生き物研究所」

\*海に親しむ・海を知る

年 2 回のスノーケリングで地元の海の豊かさを知り、西岬の海を守りたいという思いを描く。そのために、自分に出来ることは何か。夏休みの実践につなぐ。

###### ④ 5 年(総合的な学習)「伝えよう西岬の海」

\*海を知る・海を守る

スカイプを活用し他地域との交流。同じ黒潮が流れているが海中の様子は異なる。違いを知ることでさらに、西岬の海への愛着が深まる。いつまでも自慢できる海にするために自分達にできることを実践する。

###### ⑤ 6 年(総合的な学習)「守ろう西岬の海」\*海を守る

きれいな西岬の海を守るために、身近な生活排水について実験。結果から、海を守るために自分のできる

ことは何か考え、周りの人々に発信する。

##### (2) 他教科・領域との関連

###### ① 特別の教科 道徳

海洋の体験活動前後に道徳の授業で「生命の尊さ」「自然愛護」の内容項目を位置付ける。

###### ② 社会科 \*「守ろう西岬の海」につなげるために

4 年「住みよいくらしをつくる」水の循環

5 年「わたしたちの生活と食料生産」水産業・位置

「わたしたちの生活と環境」美しい環境

#### 2 興味・関心の持続から実践力へ

##### (1) 人的環境を整える

##### (2) 物的環境を整える

### III 成果と課題

#### 1 成果

(1) 発達段階に即した活動内容のため、無理なく体験活動に興味・関心を持たせることができた。

(2) 専門の方のサポートがあったため、疑問を解決しながら新たな疑問、気付きにつながる学習ができ、内容の質を高めることができた。

(3) 西岬の海を知り、親しむ活動を重ねることで、西岬の海を守りたいという意識が高まっている。

#### 2 課題

(1) 地域素材を生かした学習は、職員間の引き継ぎが重要である。人材・施設等の外部支援体制をさらに整え、今後も継続的に活動を位置付けていく。

(2) 児童個々の課題設定・探求学習の質を高めていくには、教師の指導力向上が必要である。

### IV 提言

#### 1 カリキュラムを相互調整するためのコーディネーター

海と関わる豊かな体験活動を行うためには、地域の力に頼るところが大きい。そのため、外部の専門家との打ち合わせでは、校長のリーダーシップの下、教頭・教務主任等も同席し活動に関しての教育的ビジョン、学校として学ばせたいことを伝える。また、校長自身が課題を的確にとらえる洞察力を磨くこと、さらにネットワークづくりに努めていくことが重要である。

#### 2 児童や教職員の目的意識・モチベーションを高める

外部の専門家との具体的な活動計画立案では、担当職員も参画し、協力体制を整えていかなければならない。そのためには、組織として教職員の指導力の向上を図ることが重要である。また、児童の様子を積極的に地域や保護者に発信し続けていき、児童や教職員の充実感・達成感につなげ、環境教育への持続を可能にしていく。